

## ＜中小企業・ベンチャー経営革新プログラム＞

指導教授：坂本光司

プロジェクト名	ビジネス農業体に関する研究（通称：農業プロジェクト）
研究テーマ	日本の農業経営が利益を確保し、国際競争力を高めるための方策について収益構造の差異に着目し、経営学の観点から調査研究を行う
研究目的	「農業が日本を救う！」という考えを持ち、全国のビジネス農業体の成功事例を収集・取材し研究結果の発表を行う。
研究内容	収益の上がっているビジネス農業体の収益構造の解明。 農業法人はまだ組織体としては数が少なく、1社でできることには限りがあり、得意なことを持ち寄ってゆるく連携することが利益に関与しているのでは無いかと等という観点からインタビューを行う。
研究の方法	自主研究。 2011年度に実施した「農業ビジネスの実態と方向に関するアンケート調査」の結果を中心に以下4分類へ現場調査（国内30～50ヶ所を予定）を行う。 ①「他薦&経常利益5%以上リスト」から選定 ②「他薦&経常利益5%以上リスト」にない利益を上げる組織 ③「他薦&経常利益5%以上リスト」にない他薦された組織 ④他の組織にない強み&魅力を持った自薦すべき組織
研究期間	当研究は2009年度から取り組んでおり、今後も継続予定だが、今回の横断型プロジェクト研究については以下の予定で進める。 ●11月22日（木）各自ヒアリングレポート締切り ●11月24日（土）レポート内容の確認チェック ●12月1日（土）ヒアリングレポート修正版の入稿 ●12月8日（土）プロジェクトまとめレポートの入稿 ●12月15日（土）研究経費清算書を代表者会議へ提出 ●2013年2月17日（日）成果発表会
期待される効果	後継者に悩まされ、利益が上がらないことに悩まされる日本の農業。 ビジネス農業体によって収益をあげ、後継者や新規参入者の受け入れにより、今後に期待が出来るようになった団体を調査研究し成功事例としてモデル化する。 農業家のコミュニティ創りはどのようにすれば良いのか？の解明により、ハブとなるリーダーやキーマンを取り上げ、業界内でよりよい情報の共有や相談ができる機会を創る。 これにより日本の農業が国際競争力を高めるヒントとなるようにする。
メンバー	(M1) 榎谷・人見 (M2) 清水・木村・水野・芹澤・門田 (研究生) 野口・藤井・今野 (M2) 埴【岡本ゼミ所属】・(M2) 馬場【増淵ゼミ所属】・吉井【IM所属】

## < 中間報告 >

当プロジェクトは、農業に見識のある者や興味関心のある者がメンバーとして参加している。また、今回の横断型プロジェクトの醍醐味である他ゼミからの参加者として、埴さん（岡本ゼミ）と馬場さん（増淵ゼミ）が加わり、今後視察や分析を進める上で、お互いの知見が相乗的に研究成果を高めるものとして期待ができる。

現在、以下のとおり鋭意進行中です。

- 全体進捗状況はファイルを回覧し共有する
- 視察情報はメーリングリストで共有し、同行可能な場合は便乗する。
- 1人2社以上の現場調査を行い、ヒアリングレポートを作成提出する。  
(今回の学生補助金は、一律1人1万円をレポート作成費として支給予定)
- プロジェクトまとめ(研究成果となる報告書) レポートの作成  
4分類の現場調査レポートを総括して藤井研究生が各傾向分析としてまとめる。
- 現場調査の組織傾向

組織傾向	訪問件数
①「他薦&経常利益5%以上リスト」から選定	
②「他薦&経常利益5%以上リスト」にない利益を上げる組織	
③「他薦&経常利益5%以上リスト」にない他薦された組織	
④他の組織にない強み&魅力を持った自薦すべき組織	
合計	0

- 現場調査の地域傾向

地域	訪問件数
北海道	1
東北	4
関東	14
信越・北陸	3
東海	8
近畿	1
中国	3
四国	2
九州	5
合計	41

※別紙、詳細「全体進捗状況」資料あり

以上

## ＜オトナのカルチャー研究会＞

指導教授：増淵敏之

プロジェクト名	団塊の世代を対象とする「オトナ」文化の研究
研究テーマ	少子高齢・人口減の中、主力マーケットの「大人」・同好の士等、新たな「オトナ」マーケットでのトライブ構築は現在どのように行われているのか
研究目的	新たなサードプレイスの認知。 ビジネス創出の可能性、地域振興に繋がるニーズを明らかにする。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「習い事」文化—美術館等での講座・料理教室等</li> <li>・「行楽」文化—寄席・歌舞伎・能等、伝統行事</li> <li>・「スナック」文化—スナックにおけるサードプレイス発掘</li> <li>・「音楽（ディスコ）」文化—バブル前・バブル期の「オトナ」の現在の動態調査</li> </ul>
研究の方法	<p>自主研究。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記各班が、対象地域・施設を決め現地視察・インタビュー調査</li> <li>・プロジェクト内で報告、共有</li> <li>・プロジェクト主催シンポジウムでの成果発表</li> </ul>
研究期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 11月17日（土）プロジェクトシンポジウムにおいて各班調査結果の報告・共有</li> <li>● 12月1日（土）11/17での報告内容をレポート化し統合・入稿</li> <li>● 12月15日（土）研究経費清算書を代表者会議へ提出</li> <li>● 2013年2月17日（日）成果発表会</li> </ul>
期待される効果	<p>「習い事」「行楽」「スナック」「音楽（ディスコ）」、各文化における団塊・その前後世代の動態調査を通して、今後日本経済においてますます存在を強めるであろう高齢者市場でのビジネスアイデアの発見が可能となる。</p> <p>アイデアだけにとどまらず、サードプレイス（自宅でも職場でもない個人の居場所）における共同体の発見に繋がり、社会的・文化的価値も高い研究になることが予想される。</p>
メンバー	増淵ゼミ ゼミ生一同、[M1]岸本（中島ゼミ）

## 1、調査概要

調査日時：6月26日（火）21時～24時

場所：マハラジャ六本木

調査趣旨：オトナな方々が音楽を楽しむ空間にて、どのような楽しみ方をするのか調査する。

## 2、現地の様子

### 店内の様子

- ・一言で言うと「ギラギラ」している
- ・ドレスコードはないがそれなりの恰好で来るのが暗黙の了解な雰囲気
- ・スタッフの年齢層は若者向けクラブと変わらない
- ・客入りは20人程度 店員曰く、火曜日はもっとも空いている日  
→一番空いている日にディスコミュージックのイベントを行っている

### 客のタイプ

大きく3つに大別できる

- ・ディスコ全盛期に様々なディスコに通っていたタイプ（ただし少数）  
\*若い頃行っていたディスコは青山のキングアンドクイーン、六本木のネペンタ、マジック、カンタベリーハウスなど・・・
- ・ディスコ世代ではあるが当時熱心に通っていたわけではなく、今「企画としての」ディスコナイトに酔いしれているタイプ  
→若かりし頃、マハラジャ等のディスコ文化で遊びそびれて今、噂を聞きつけてやってきたタイプ
- ・クラブの企画としてディスコを楽しむ若者  
→マハラジャは数ある六本木のクラブの一つ

## 3、結論

- ・マハラジャに当時のディスコ文化は息づいていない  
→あくまでも「らしさ」を味わう場所
- ・当時のディスコ文化を享受していた人々にリサーチ調査を行い、彼らが現在どのような場所へ踊りに行くのかを抽出して検証していく必要がある。

- 第1回活動報告 (2012年6月)
- 大人のカルチャー研究会 行楽班
- 2012年7月28日
- 第1回活動：落語鑑賞

#### ■活動概要

- 日時：2012年6月29日 午後6時30分～8時15分
- 場所：浅草 演芸ホール
- 参加者：
  - M2：家長 伊藤 土田
  - M1：近藤 清水 高橋 東山 村上 東樹  
(敬称略)
- 活動費用：13,500円 (1500円×9名)
  - 第1回活動：落語鑑賞

#### ■当日の演目 (夜の部：4時40分～9時)

##### 【第1部】

- 柳亭 小痴楽
- 宮田 章司
- 神田 松之丞
- 三遊亭 春馬
- チャーリーカンパニー
- 三遊亭 笑遊
- 桂 伸治
- 北見 伸&ステファニー
- 昔昔亭 桃太郎

##### 【第2部】

- 三遊亭 遊史朗
  - 鏡味 正二郎
  - 桂 幸丸
  - 三遊亭 栄馬
  - 新山 ひでや やすこ
  - 三遊亭 遊三
  - 檜山 うめ吉
  - 三遊亭 圓丸
- (16高座 計19名)

- 第1回活動：落語鑑賞

#### ■そもそも落語とは

噺の最後に「オチ」がつくのが特徴。歌舞伎など、ほかの伝統芸能と違い、落語は身振り手振りのみで噺を進め、一人何役をも演じます。衣装や舞台装置などを極力使わず、演者の技巧と聴き手の想像力で噺の世界が広がっていく、とてもシンプルで身近な芸能です。

#### ■落語の歴史

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆 (おとぎしゅう)」と呼ばれる人たちでした。

その中の一人、安楽庵策伝 (あんらくあんさくでん) という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽なオチのつく「噺」を披露してたいへん喜ばれました。江戸時代に入ると有料で噺を聞かせる人物が登場し、大阪では「米沢彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。こうして、「寄席」が誕生したのです。

- 第1回活動：落語鑑賞

## ■当日の気付き

### ・高座について：

全4時間20分の間に16の高座があることから分かるように、非常に充実したスケジュール。かつ、ジャンルも、落語は勿論のこと漫才・手品から曲芸・奇術（マジック）に至るまで、多岐にわたる「芸」の共演として見応えがありました

### ・「観客」について

一方、私たちが行った時、観客は61名（空席率50%程でしょうか）、そのほとんどが中高年の方々であることを考えると、少しさみしい気がしました。

（当日券：2000円を考慮すると、夜の部の収入は約12万円。出演料・演芸ホールスタッフの人件費・光熱費を考慮すると実質赤字か）

- ・ 第1回活動：落語鑑賞

## ■公益社団法人落語芸術協会とは

- ・ 正式名：公益社団法人 落語芸術協会通称芸協（げいきょう）

- ・ 所在地〒160-0023

東京都新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2階

- ・ 電話番号 03-5909-3080
- ・ ファックス 03-5909-3082
- ・ 創立年月日昭和5年10月11日
- ・ 落語芸術協会会長：桂 歌丸

- ・ 第1回活動：落語鑑賞

## ■公益社団法人落語芸術協会の活動

- ・ 全協会員：210名

- ・ 演芸場：8か所

新宿末廣亭 浅草演芸ホール 池袋演芸場 国立演芸場

お江戸日本橋亭 お江戸広小路亭 横浜にぎわい座

東京芸術劇場

- ・ 定席：毎日上述8か所のどこかで、2～4開催

- ・ 国からの補助金：落語芸術協会として

項目：トップレベルの舞台芸術創造事業大衆芸能（年間活動支援型）

- － 寄席定席公演 45,300千円
- － ちえりあ・仙台寄席 1,800千円
- － 2012芸協らくご・大須寄席 2,000千円

- ・ 第1回活動：落語鑑賞

## ■参加者感想

・ 馴染みがなかったことも有り、落語についてあまり期待していなかったが、とても楽しく、良い意味で期待を外された。

・ 話を知らない分からないという印象があったが、知らない者（初心者でも）とつきやすく、大衆のものだということを改めて感じた

- ・ とても素晴らしいものなのに、演芸ホールに空席が目立った点は残念だった

## 都市空間プログラム

指導教授：恩田 重直

プロジェクト名	浜松市中心市街地の実態調査
研究テーマ	静岡県浜松市の中心市街地の賑わいと、戦後に建てられた「共同建築」の実態と活用について検証
研究目的	① 静岡県浜松市の中心市街地の賑わい調査 ② 共同建築の現状と今後の活用の検証
研究内容	事前準備として、地図上に時代ごとの建築用途を色分け、経年変化を確認する。 現地調査として、建物の利用状況等を調査。また、共同建築の実態を知るため、インタビュー調査を行う。
研究の方法	時代ごと(1951, 1958, 1970, 1980, 1990, 2000, 2011)の各住宅地図に掲載されている建物用途(銀行、病院、学校、)を、地図上に色分けする。経年変化を検証するとともに、共同建築と思われる建物の抽出を行う。 現地で、地図上の分類の検証、インタビュー調査を実施する。
研究期間	8月上旬 事前準備…地図等の作成 8月29日(水)～9月3日(日) 現地調査 11月上旬 調査まとめ
期待される効果	戦後に建てられた特有の建築物「共同建築」は、市街に点在している。この共同建築の実態を調査し、浜松市の地域資源として活用を検証する。 戦後に建てられた負の遺産ではなく、まちづくりに一役を担う魅力になりうるものであると考えられる。
メンバー	(M1) 荘司、関、早川、(M2) 安達、清水、富永、太田(中嶋ゼミ) (研究生) 綿谷

## <観光・メディアプログラム>

指導教員：中嶋 聞多

プロジェクト名	文化による地域活性化プロジェクト
研究テーマ	栃木県芳賀郡益子町を事例とした文化による地域活性化プロジェクト
研究目的	益子町でのフィールドワークを通して窯業の文化的側面に着目した「地域文化」が地域活性化に果たす役割を明らかにする。
研究内容	益子町の暮らし方に焦点をあて、住民へのアンケートやインタビューによって益子町の暮らしぶりを考察するとともに、益子町の内発的な活動が地域活性化へと導くプロセスを明らかにする。
研究の方法	栃木県芳賀郡益子町を対象としたフィールド調査 益子町住民へのインタビューおよびアンケート調査 益子町への来町者（町外居住者）へのアンケート調査
研究期間	2012年4月 1日 ～ 2012年 12月 31日
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"><li>● 研究の成果を報告書としてまとめるとともにプロジェクト参加者の今後の研究に調査研究を活かす。</li><li>● 地域文化が地域活性化に果たす役割を明らかにすることで今後のまちづくりの施策において参考にすることを期待できる。</li></ul>
メンバー	(M1) 松岡 (M2) 太田 (M1) 外池、増成[岡本ゼミ所属]



## 〈栃木県芳賀郡益子町を対象としたフィールド調査〉

### ■ 2012年9月「土祭—ヒジサイ—」視察及びアンケート調査

#### (1) 土祭の視察

益子町では、2012年9月16日の新月から、月が満ちる満月の30日までの15日間土祭が開催された。土祭とは、「土」をテーマとして益子の風土と文化を見つめ直し、やきものに関連した展示やワークショップ、地元食材を用いた食堂やバー、民芸に関するセミナーなどさまざまなイベントが重層的に展開する新しい祭である。益子町は、益子焼の産地として知られているが、窯業だけでなく農業も古くから営まれてきた人口約2万4千人の小さな町である。「土」は、益子の原点であり生命の源でもあるというコンセプトのもと土祭は2009年より開催され、今年が第2回目の実施となった。第1回目の来場者数は、16日間で約41,000人。初回にしては、好評を得たといわれていたが今年の土祭は、前回は上回る52,000人<sup>1</sup>ほどの来場者数を記録した。住民ボランティアにおいては、前回は262人(登録人数)、今年は準備期間を含め延べ600人<sup>2</sup>を超えた。「益子町が好きだから町のために…」と仕事や家事の合間をぬって駐車場の整備や展示の案内、来場者の誘導、ワークショップの補助など多くの住民ボランティアが約2週間の土祭を支えた。また、町外から来た観光客だけでなく益子町住民も散歩がてら土祭に出かけ、展示や食事、地元同士の交流を自らが楽しむという光景を垣間見ることができた。土祭は、町外の人々が楽しむ観光イベントではなく、日常の中に溶け込んだ祭であった。毎年7月に実施される益子町の祇園祭の彫刻屋台や山車も土祭の期間中、特別に屋台パークから動き出し巡行され、盛り上げをみせた。



益子焼よりももっと古い江戸寛政年間創業の紺屋の藍甕。作家によって日常の風景が新しい表現の舞台となる。



窯元から無償で提供された屑土を用いて作られた土人形。会場内の路上などあちこちに展示された。



住民手作りで作られた無数の旗と前回の土祭で作られた益子の土を何層も積み重ね、固めた土舞台。

#### (2) 土祭の波及効果

近年、地域振興を目的としたアートプロジェクトが各地でさかんに開催されている。日本で最初に始ま

<sup>1</sup> 益子町役場よりヒアリング (2012年10月)

<sup>2</sup> コロカル 土祭レポート Vol.2 (マガジンハウス)

[http://colocal.jp/topics/art-design-architecture/local-art-report/20120919\\_11714.html](http://colocal.jp/topics/art-design-architecture/local-art-report/20120919_11714.html)

った大規模な国際展覧会は、新潟の「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」(2000年～)である。ちょうど今年で5回目を迎えた新潟のトリエンナーレの招聘作家数は、約225人。越後妻有対して土祭の招聘作家はわずか40人。開催地域も越後妻有は、十日町市と津南町と2つの市町村を横断し、1日では決して回りきれない広さである。しかし、作家や展示数、会場の規模は大きくないものの土祭も少しずつまちづくりへの波及効果をもせ始めている。その1つが、「ヒジノワ」<sup>3</sup>というコミュニティカフェの取組である。2009年の第1回土祭のときに会場となった中心市街地の空き家が、コミュニティカフェとして生まれ変わり、継続的に土祭終了後も活動を続けカフェを運営している。週替わりで、土祭を契機にテーマごと設立された団体等が、ギャラリーとして作品を展示したり、カフェを開いたり新たにぎわいをみせている。現在は、約10団体が出店し運営に参加<sup>4</sup>している。

土祭の目的は、空き店舗や空き家が増え活力をなくした中心市街地を活性化させることだけが目的ではなかった。既存の地縁型コミュニティだけでなく、Iターン者(転入者)と地元の継続居住者やUターン者が一体となった新しいコミュニティを醸成させ祭終了後も継続してまちづくりに参画することであった。益子町は、従来から多くの陶芸家や木工・染織などの手仕事作家等、若いIターン者が多く集う。新住民と旧住民が混ざり合い、まちづくりのテーマごとに立ち上げた新しいコミュニティは、土祭を契機として新たなまちづくりへの担い手となった。



新潟県十日町市・津南町で開催された  
大地の芸術祭アートトリエンナーレ  
(2012年8月ゼミ合宿)



コミュニティカフェ：ヒジノワ

「土＝郷土」を同じくするものの「ネットワーク＝  
輪」。「ヒジノワ／土の輪」。

## (2) 来場者へのアンケート調査

土祭開催期間中の2012年9月21日(金)～23日(日)の3日間、町内者(住民)と町外者(来町者)に対して「益子町の暮らしと益子焼に関するアンケート調査」を行った。その結果にもとづき益子町の暮らしと益子焼に対する町内者・町外者の意識、町外者からの益子町の暮らしに対するまなざしについて考察する。調査の主目的は以下の2点である。

- ① 益子町の住民は、益子町の暮らしに魅力や愛着を感じているのか。また、暮らしの中に益子

<sup>3</sup> ヒジノワ HP <http://hijinowa.net/about.html>

<sup>4</sup> ヒジノワ出店団体より聞き取り(2012年10月)

焼はどれだけ取り入れられているのか。

- ② 益子町に来町した町外の方は、益子町の暮らしに魅力を感じているのか。(移住意向はあるのか。)また、益子焼をどの程度使用しているのか。

#### 【調査概要】

1. 調査地域と回収
  - ① 町内居住者(益子町住民)70人 ※町内在勤・在学/町外在住者 14人を含む。
  - ② 町外居住者(土祭来場者)81人
2. 調査方法  
街頭ほかでの面接調査+留め置き調査
3. 調査期間  
2012年9月21日(金)~23日(日)
4. 回答数  
151件

#### ■益子町住民へのインタビュー調査(2012年10月)

1. 調査内容  
3地区(益子・田野・七井)の居住者へのインタビュー調査
2. 調査地区
  - 《益子地区》  
益子町の中心市街地を含む地区。城内や道祖土を中心に益子焼を製造する窯元や販売店が多数点在する。
  - 《七井地区》  
真岡鉄道が停車する無人の七井駅がある益子町北部。農村地区でいちごやみかんなどの果物、米、ナスなどの野菜を栽培。
  - 《田野地区》  
小貝川の下流の益子町南部。農村地区で、米、葉タバコ、なす、いちごなどを栽培。豚、生乳などの家畜もおこなう。

※【地区別陶磁器事業所数】(益子焼統計調査H22)

地区別の事業所数をみると、益子地区193事業所で全体の63.9%を占める。次いで七井地区89事業所29.5%、田野地区20事業所6.6%の順になっている。※平成24年3月「益子の窯元・陶芸家実態調査」で明らかになった統計情報とは多少異なる。

3. 調査対象  
益子町商工会会長、自治会長、町議会議員、陶芸作家等益子町住民 計15人

## <雇用プログラム>

指導教授：諏訪康雄

プロジェクト名	雇用に関するインターネット調査
研究テーマ	労働者の働き方、キャリア開発に関する定量調査
研究目的	日本社会の雇用、労働に関し、労働者のキャリア開発や専門職のあり方、社会の中での認識について等、あらゆる面から調査を行うことで課題を明らかにする。
研究内容	以下3つの領域に関する研究とする。 1. 新卒労働市場（就職活動、労働者のキャリア形成） 2. 働き方（住環境・労働環境、非正規雇用） 3. 専門職・キャリア（看護職、グローバル人材、一次産業従事者）
研究の方法	各自論文研究テーマのキャリアに関する項目について、マクロミル社を活用しインターネットによる定量調査を行う。 集計結果は、アクセス、SPSSを用いて分析を行う。
研究期間	2012年9月1日 ～ 2013年1月31日
期待される効果	非正規雇用の活用、テレワーク社宅等を活用した、多様化する労働者の働き方、若者を中心とした労働者のキャリア形成、看護職などの専門職のキャリア開発、グローバル人材のキャリア形成、等の観点から、雇用の現状や課題を定量的に分析し、日本社会の課題を明らかにすることで、これからの雇用政策検討の一助となる。
メンバー	(M2) 志水、飯塚、矢島、高岡 (D 課程) 草柳 (M2) 牧野【岡本ゼミ所属】

現在の進捗状況	マクロミル担当者と設問の設計、文言の最終調整を行っている。
今後の予定	設問確定後、調査を実施（マクロミル社、10月中）。 その後、各自が作成した設問の結果を中心に、アクセス、SPSS等を使って分析作業を行い、そのデータを論文の材料のひとつとして執筆を進める。

### <地域産業プログラム>

指導教授：岡本義行

プロジェクト名	群馬県みなかみ町地域活性化活動に関する研究 ～観光業と農業の実態調査より～
研究テーマ	温泉観光地における地域資源を明らかにし、その資源をどのように活用し、他の温泉観光地とどのように差別化していくのかを研究する。
研究目的	本プロジェクトは、18もの温泉を抱えるみなかみ町を具体例として、温泉・温泉関連産業をはじめ、観光産業、農業、行政、地域資源などを調査し、みなかみ町が活性化するための対策提言書をまとめることを目的とする。
研究内容	①みなかみ町役場・みなかみ町観光協会からのヒアリングおよび意見交換 ②教育旅行協議会の取組施設視察とヒアリングおよび意見交換 ③商工会からのヒアリングおよび意見交換
研究の方法	共同研究 みなかみ町役場・みなかみ町観光協会・教育旅行協議会・商工会への現地視察や課題ヒアリング、および意見交換会の実施。 対策提言報告書の作成、研究発表。
研究期間	2012年 10月 21日 ～ 2012年 10月 22日

期待される効果	<p>消費が冷え込み疲弊する温泉観光地。実態としての温泉観光地を現地調査することにより、地域の強み、弱みを明らかにし、地域資源からどのように他の温泉観光地と差別化するのか、より良い地域活性化活動について研究する。</p> <p>また「温泉」という重要な地域資源をどう活用していけば、地域経済にも貢献できるのか、競争力を持った温泉観光地になりえるのか考察する。</p>
メンバー	<p>(M1) 吉田、(M2) 埴、(M3) 堀水 (D課程) 鈴木、多林、山本、 (M2) 馬場【増渕ゼミ所属】</p>

## ＜人口・経済・社会 生活及び地域社会プログラム＞

指導教授：小峰隆夫、池永肇恵

プロジェクト名	大震災後の地域経済に関する調査研究
研究テーマ	東日本大震災の被災地域を視察し、マクロな経済統計では見えにくい地域経済の現状を把握することを目的とする。
研究目的	<p>2011年3月11日に発生した東日本大震災は、人的・物的被害を始め、我が国の経済にも重大な影響をもたらした。三菱総合研究所の試算によると、被災地域におけるストックの毀損額の推計は、14～18兆円に及ぶ。本研究では、マクロのデータでは読み取れない地域経済の現状を、被災地域に実際に訪問し、把握することを目的とする。</p>
研究内容	<p>本研究の内容は、次の3点である。第1に、昨年（2011年8月）視察した被災地が、どのように復興したのか（またはしていないのか）を比較することである。第2に、復興に携わる方（例えば被災地の復興対策に従事している公務員等）や地域の方から、地域経済の現状をヒアリングする。第3に、昨年の視察よりも視察の範囲を広げ、宮城県だけではなく岩手県の被災状況も確認する。</p>

研究の方法	<p><b>自主研究</b></p> <p>初日は、石巻市復興対策室所属近藤氏から復興対策の現状を講演していただき、その内容についてディスカッションを行う。また、プロジェクト参加者が事前準備したエッセイの発表等を行う。</p> <p>2日目は、3チームに別れ、担当地域のフィールドワークを行う。担当地域を、宮城県内を2チーム、岩手県行が1チームとした。</p>
研究期間	2012年9月8日～2012年9月9日
期待される効果	<p><b>【プロジェクトの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロなデータに表れない、地域の現状を把握することができる。</li> <li>・地方公共団体が行う復興対策の実際を理解することができる。</li> <li>・昨年視察した者は、復興の状況を比較することができる。</li> </ul> <p><b>【他ゼミの方の参加による効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の研究領域、専門を持つ者が参加することにより、既存の視点とは異なる気付きを得ることができる。</li> </ul>
メンバー	<p>(M1) 佐藤、別所、越尾 (M2) 柏瀬、片桐、井芹 (M3) 大澤 (研究生) 萩原 (D 課程) 田尻、渡邊、小川、大倉【政策科学研究科】 (M1) 増成【岡本ゼミ所属】</p>

## <中間報告>

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、人的・物的被害を始め、我が国の経済にも重大な影響をもたらした。三菱総合研究所の試算によると、被災地域におけるストックの毀損額の推計は、14～18兆円に及んだ。国の発表や報道等で、これらの数字は把握することができる。しかし、実際の復興状況がどのようなものであるのかは、マクロなデータには出てこないため、被災地にいる者以外には把握が難しい。

そこで、本研究では、マクロのデータでは読み取れない地域経済の現状を、被災地域に実際に訪問し、把握することを目的として行った。

### 「記」

#### 1. 目的

東日本大震災の被災地域を視察し、マクロな経済統計では見えにくい地域経済の現状を把握することを目的とする。

#### 2. 訪問先と概要

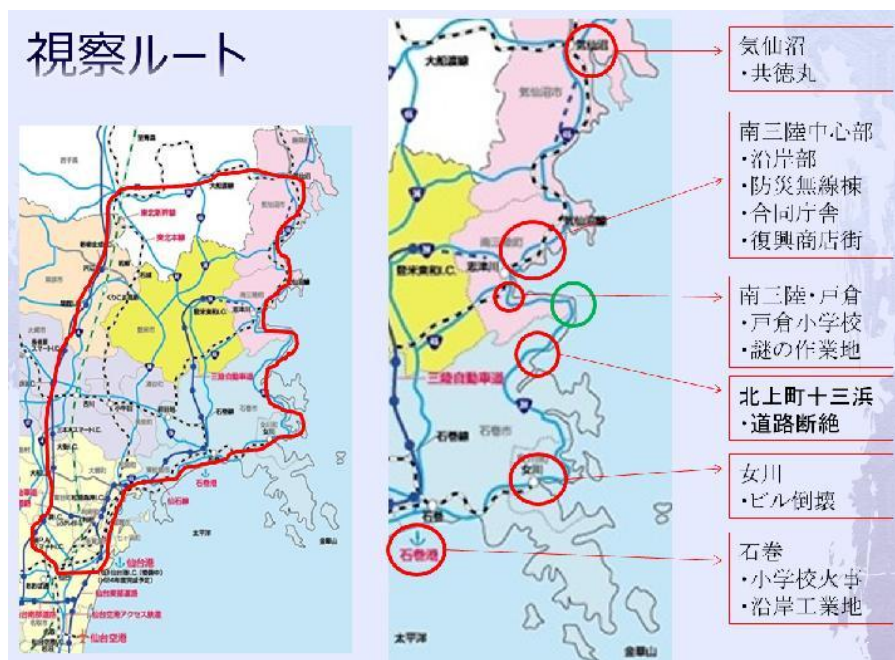
宮城県、岩手県の被災地域

### 3. 視察日程及び行程

別紙参照

### 4. 現在の状況

- ・2012年9月8日、9日に「3」の別紙に記載した通り、視察を行った。
- ・現在は、視察の結果を報告書に取りまとめているところである（画像は小峰チーム視察先）。



<別紙>

## <2012年度 小峰・池永ゼミ プロジェクト日程>

9月8日 (土) <<1日目>>

9:10 JR東京駅「八重洲北口改札前」集合

9:36 東京駅発 [21番線 はやぶさ3号乗車]※指定席=2号車01ABCDE~03ABCDE

11:12 JR仙台駅着

11:20 ダイワロイネットホテル仙台到着

11:30 昼食時間+自由時間 (約1時間30分)

13:00 エル・ソーラ仙台 (AER仙台28・29階) 集合

13:30 近藤さん (石巻復興対策室所属) の講演・質疑応答 (講演60分、質疑応答30分)

15:00 10分間休憩

15:10 エッセイ発表開始

18:00 会議室利用終了→ホテルへ移動 18:10 ホテルチェックイン

18:30 ホテル1階ロビー前に集合

18:45 夕食

\*丸特漁業部 名掛丁店 <http://www.hotpepper.jp/strJ000973513/>

20:45~ 自由行動



9月9日（日）《2日目》

6:30~7:50 朝食〔ホテル2階 丸得漁業部〕

8:00 ニッポンレンタカー仙台駅前ターミナル（ホテルから徒歩2分）

【各グループ】

A. 宮城（帰宅早め）・・・池永先生、萩原、佐藤、別所（4名）

B. 宮城（帰り遅め）・・・小峰先生、大倉、田尻、柏瀬、越尾（5名）

C. 岩手・・・渡邊、小川、片桐、井芹、増成（5名）

20:00まで レンタカー返却（必ず20時までに返却してください）

\*宮城県内グループはニッポンレンタカー仙台駅前ターミナルへ返却

\*岩手県行グループはニッポンレンタカー北上駅前へ返却

以上